

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472601333	事業の開始年月日	平成13年4月1日	
		指定年月日	平成13年4月1日	
法人名	社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会			
事業所名	グループホーム相模原			
所在地	(252-0031) 神奈川県相模原市南区大野台5-13-7			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	8名	
		ユニット数	1	ユニット
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月3日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1ユニット8名と小規模だからできる、ケアのきめ細やかさや1人1人に寄り添ったケアの統一。食材や日用品の買物を一緒に行って、食事作りは職員だけが作るのではなく必ず入居者の方と一緒に、出来ることを見極め声掛けし手伝ってもらっている。ホームページ、インスタグラム、フェイスブックの更新をまめに発行し、ホーム側から施設の日常を発信し、面会に来られない家族や多くの方に知ってもらおう努力をしている。暮らしの継続やその方の性格に合わせた生活リハビリへの声掛け、掃除や日記、クロスワードや歌、ドライブ等毎日退屈しないような工夫を行っている。本人の気持ちを尊重した制限のない生活を心掛け、買物や散歩へ行きたい方は1人で行ってもらっている。

共用型デイサービスでは家庭的な雰囲気のあるグループホームの良さを知ってもらい、通常のデイサービスとは異なりより普段の生活に近い日常を送ってもらっている。また、入居される前にホームの様子や入居者様・職員らと顔なじみになることで、空きが出た際はご家族やご本人様にもスムーズな入居となっている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月9日	評価機関 評価決定日	令和4年12月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅北口からバスで15分程「老人ホーム入口」下車、徒歩10分程の住宅地の中にあります。1ユニットで定員は8名です。正規のサッカー場とほぼ同じ広さの敷地に特別養護・養護老人ホーム、ケアセンター、デイサービスなどが併設されています。法人は昭和20年に発足した歴史ある社会福祉法人で、現在県内に21ヶ所の各種社会福祉施設を運営しています。

<優れている点>

職員が話し合い掲げた理念「その方が歩んできた生活を大切に『私らしく』生活できるように支援します・家庭的な環境と雰囲気を提供します・他」をコンセプトとして、本人が望む生活に寄り添い、本人が出来ることを大切にして支援しています。介護計画作成に当たっては、24時間シートを活用したモニタリングを実施し変化に気づき、本人の意向を把握し計画書を作成するよう努めています。支援する職員は殆どが介護福祉士の資格を持ち、長く働いています。食生活に拘り、朝・昼・晩、職員が調理し、入居者も野菜の刻みや盛り付けなどで調理に参加しています。

<工夫点>

リビングのテレビではオンライン公式動画チャンネルを利用して、昭和の懐かしの歌番組や時代劇、動物番組などを放映し入居者が楽しめるよう工夫をしています。以前は運営推進会議後の昼食会で家族も含めた参加者に昼食体験を実施。庭でのバーベキューや焼き芋大会、職員の子どもたちとの交流など、様々な活動にアイデアを取り入れ工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム相模原
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関にグループホームの理念を掲げており、常に意識して行動している。新人職員にも具体的に例を挙げ説明、対応に困った時などには改めて理念を思い返し、ケアの統一を図っている。	施設理念「その方の歩んできた生活を大切に『私らしく』生活できるよう支援します・家庭的な環境と雰囲気を提供します・その方の能力に応じ自立した日常生活を送れるように支援します」を掲げ、日々の入居者支援の際は理念に立ち返りケアの内容を検討し取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩の時に近所の方と挨拶をしたり、犬を触らせてもらったりと交流している。コロナ禍になり地域との繋がりが薄くなっているが（地域の行事参加は中止中）近くのコンビニを利用したり近隣の美容室に行くことは継続している。	自治会に加入しています。これまで祭りや近隣の小学校や保育園の行事などに参加し、法人施設合同で毎年祭りを実施し交流しています。コロナ禍により現在は諸行事は中止していますが、今年は近隣住民のボランティアで庭の畑でサツマ芋を育て収穫し、焼き芋大会を開催し交流しています。	コロナ禍が長期化する中で新たな地域との交流の創造が期待されます。かこのカフェ（認知症を語り合える場所作り）などの支援活動や園児たちとの新たな交流形態作りが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	かこの（認知症）カフェや地域交流会、実習生の受入れはコロナ禍になり行えていないが、ホームページやフェイスブック、インスタグラムなどを使って地域の人々に情報を発信、ホームの日常を紹介している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍にて書面での報告、情報発信となってしまっており、元来の参加者からの意見等が得られていない。	書面会議で隔月実施し、自治会長や民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、入居者家族が参加し活動報告など意見交換しています。議事録にアンケート用紙を同封し意見などを聞いています。コロナ禍以前は会議の後、昼食を提供してホームの食事体験の場としていました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	何かあったら市に連絡し、日頃から協力関係を築くよう努力している。	相模原市高齢・障害者福祉課職員とは相談や報告で連絡を取り合っています。相模原市南生活支援課職員とは生活保護受給者の支援で連携しています。神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に参加して、昨年まで役員として協力し、研修企画などを担当して活動してきました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に委員会や研修を開催、拘束につながるような対応をしていないか等の確認を行い、身体拘束をしないケアを行っている。利用者が外出しような場合は制止するのではなくさりげなく声を掛けたり一緒に付き添う等の工夫をし、危険があることを家族とも話し合いをしている。	外出した入居者が怪我をする事例があり現在は施錠しています。外出願望時は職員は共に外に出て、散歩などの後、事業所に戻ります。身体拘束適正化委員会は職員会議で3ヶ月毎に実施しています。夜勤時の働き方にも注意し、声かけの仕方など主任・管理者が気づいた都度、話をして指導し拘束のない支援に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修などを行い事業所内で虐待が発生しないよう努めていたが、それに近い事案が発生し関係各所・ご家族にも説明を行った。研修を開くなど再び施設内で虐待が行われないよう皆で情報共有し防止に努めている。入浴時にはあざ等ないか身体チェックを行い、言葉遣いに関してはスピーチロックをしないよう気を付けている。	虐待防止については身体拘束防止と共に研修会や職員会議で、具体的な事例に基づいて話し合い学んでいます。特に一人勤務時の入居者へのケアについて再発防止に向け話し合い、虐待防止のポスターを作成し職員休憩室に掲示し、意識づけを図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修や勉強会に参加して権利擁護や成年後見制度についての理解を図るよう努めているが、個々の必要性を考え支援に結び付けたいケースもあるが家族が受け入れないことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主任・管理者が入居の際しっかり説明を行い、契約時には、十分に時間をとり内容を分かりやすい言葉に変えて説明し、質問や疑問点等を伺うようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族とは普段から連絡を取り合い、意見や要望を話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、外部評価でご家族の意見を知り、今後の運営に反映させられるよう役立っている。長い職員も多いので家族も信頼して言えると思う。	コロナ禍で家族との連絡は電話が主体です。以前は隔月の運営推進会議に各家族が交代で参加し意見や要望を話す機会を作っていました。家族会があり入居者・家族合同日帰り旅行や年末の大掃除など家族とのふれあいの場を通し、家族との信頼関係を築くよう努めて来ました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から話しやすく、(管理者は)現場の意見を施設長に報告し、必要であれば個別面談を行い、問題点等も共有している。	施設長は隣接の養護老人ホームと兼務ですが、毎朝夕と昼食時に来所しています。毎月の職員会議での介護や行事の話し合いでは、職員の提案を取り入れ運営しています。外出ドライブの際、入居者3人以上乗車の場合は職員2人体制にするなど職員の意見が反映されています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長は昼食時をはじめ、出勤時には頻りにグループホームを訪れている。職員の働きやすい環境を整えたり、行事等にも参加してくれ、一緒にグループホームの活動に関わってくれている。ただ、人事異動が少ないためそれが良い所と悪い所があると思う。	有資格者で長く勤務している職員が多い事業所です。『私らしい生活』をキーワードとして入居者支援に努め、明るい職場風土が作られています。夜勤の長・短の勤務時間が選べることや、フレキシブル勤務時間の導入、学童のいる職員への配慮など、職場環境を整備しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	その方に合った、足りない部分を考え研修へ行ってもらっている。コロナ禍になりZOOMを活用した研修が増え、普段なかなか参加できない職員でも、受けられる機会が増えた。研修後は報告書の提出、会議の場で発表してもらおう等、職員間で共有している。	職員は常勤者の比率が高く、殆どの職員が介護福祉士有資格者です。相模原市福祉施設協議会主催「認知症理解と援助」などの外部研修受講など職員のスキルアップを支援しています。職員の資格取得研修受講に際してのサポートや合格者支援の制度があります。	現在はリモート研修が主体となり手軽に受講できるメリットがある反面、受講が職員任せになりがちです。事業所として受講記録の把握、研修レポート提出など成果確認が期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム部会で事例検討会や情報提供等の交流をしていたが、コロナ禍になり、開催回数が減ったりと思うように参加できていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず面接を行い、ご本人の状況を確認し生活状態を知ったうえで不安な事はないか等聞き取りをし、話しやすい環境作りにも努め安心して利用してもらえる様努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前面接時にじっくりと話を聞き、サービス利用時には特に家族との関係づくりに努め、話しやすい環境づくりにも心掛けている。サービスの利用を開始する段階では普段以上に本人の声に耳を傾けるよう努め、良好な信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が本人にとって必要な支援かを考え他のサービスも含めた対応、必要としている支援が提供可能なか等を話し合い、介護度が上がってきた時には特養へ移行することも可能であると説明し、ご家族、ご利用者への聞き取りを十分に行い支援の方法を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者と対等な関係を心掛け、できることはやってもらい「お客様」ではなく「家族」に近い存在として、料理や掃除等の家事と一緒にやり取りや料理に関してはアドバイスをもらった際はお礼を伝えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	(コロナ禍で面会の制限はあるが) 面会の際は最近の様子を伝えたり毎月お手紙で情報共有をしており、本人の気持ちを一緒に考えたり、家族と相談しながらその方がどのようにしていったら暮らしやすいか等を話し、関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	(コロナ禍にて) 頻繁に面会できないので電話連絡があった時はなるべく本人に代わって話をしてもらおう等家族との関わり、馴染みの場所との関係が継続していけるよう、近い場所であればドライブに出掛けたりし関係を維持できるよう努めている。	年に1回「里帰り支援」を実施して、行きたい場所に同行支援をしています。今年は本人の嗜好に合わせた品物をプレゼントしています。その他、年賀状作成の支援もしています。本人の写真入りでデザイン作成し、利用者本人も手書きで一言添えています。馴染みの関係づくりに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で楽しくいたい人と一人でいたい人（他者とあまり関わりたくない）がいるので各々合わせて対応しているが、それぞれが関わりを持つ事が出来るよう、孤立しないよう職員はその橋渡しの役割をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談や支援をするような状況は今までにないが、利用終了後も時には写真や手紙を出したり、ご家族から頂き物やお礼の手紙があったりし、サービスが終了しても相談や支援ができる関係を築いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報を元に皆で共有をし今までの生活を知ることで、意向が分かりづらい方にもその方の立場に立った見方で暮らしの希望を検討しており、本人がどうしたいのかを常に考え、希望を確認し支援している。	入居時に家族・本人から思いや意向を伺い、本人の視点に立った支援を行っています。職員会議をひと月に一度行い、職員は入居者一人ひとりの暮らし方の希望を話し合い共有しています。把握が困難で不確かな場合でも言葉や表情からくみ取る努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人がこれまでどう暮らしてきたかどんな環境で過ごしてきたか等を家族や本人からの聞き取りにより、生活歴の把握に努めている。それにより、理念にもあるように「私らしく」馴染みの暮らし方を継続してもらえる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	静養や散歩、外気浴などご本人の意向に沿った一日の過ごし方、それらを記録に残したり職員間で情報共有することで現状把握をしている。「できること」に焦点を当ててそれを伸ばしていけるよう支援し、個々で異なる起床時間や食事時間も把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族からの意向、24時間シートを3日間記入し、最近の変化や支援の在り方を皆で考え現状にあったプランに反映している。	職員全員が、入居者の一日の具体的な様子や影響を与えていると考えられる事や何気ない会話を記録に残し、ケアプランの見直しに活用しています。居室担当者を中心に3ヶ月に一度モニタリングを行い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その時に言った言動や行った行動について端的に記録し、いつもの変化に気づきやすくするよう工夫している。また、個別記録、職員ノート、申し送りノートを活用し情報の共有、ケアの統一に努めており、ケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人・ご家族のニーズに対応しながらサービス提供をしており、入居者の状態の変化よりこの場所で生活を継続していくのか他へ移るのか等、家族と話し合う場を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍により地域資源を活かした生活はあまりできていないが、近所のコンビニに買物に行ったり美容院を利用する等、近隣地域との関りが継続して持てるようにしている。コロナ前は地域の行事やおしゃべりサロン等にも参加させてもらっていた。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看取りを行っている点から入所時にはかかりつけ医は統一させてもらっているが、入所前からかかっていた他科にはご家族にも協力してもらいながら、望む医療や必要な医療が受けられるように支援している。	健康管理を行う医師の往診や生活リハビリを担当する理学療法士が月2回訪問しています。兼務の看護師が勤務し、急な体調の変化があった場合に対応しています。受診結果に関する情報は職員全員で把握し、入居者の健康面・生活面を家族にらせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が出勤の際は伝え忘れがないようにホワイトボードを活用して報告できるようにしている。また、24時間連携をとっているのいつでも連絡をとれるような体制にあり、転倒時や指示をもらいた時には連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院や家族と連絡を密にとって、早期退院に向けて情報交換等をしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化してきた際には家族と話し合いの場を持ち、ホームでできることを伝えホームで最期を迎えるのかも含め家族に選んでもらっている。	看取り介護についての研修を行い、職員は看取りに関しての支援方法を身につけています。事業所では看取りの実績があり、終末期に備えては早い段階から家族と話し合い、看取りが近くなった場合は医師、看護師、家族、職員が話し合い、方針を共有して支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練は行っていないが、急変時の対応はマニュアル等で周知しており、慌てない様順を追って対応できる事故マニュアルを作成してる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内全体での避難訓練をしている。その時に出席していないと分からないので職員会議で出席した職員が説明し周知に努めている。地域住民との協力体制もとっている。	併設施設と合同で年に数回、避難訓練を行っています。いざという時に慌てず避難誘導が出来るように「緊急時連絡体制ファイル」を作成し、避難経路等を記入し職員に周知しています。防災備蓄品は併設の施設と共有し、定期的に確認しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	拒否や否定はせずにご本人の前では会話や言葉にも注意しており、本人の気持ちを尊重した声掛けをするように努めている。トイレや浴室にはカーテンやドアがあるので必ず閉め他の方に見られないよう配慮している。	入居者には人生の先輩として敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう徹底しています。接遇マナーの研修を行っています。職員は入居者の尊厳と権利を守り、無理強いをしない本人のペースに合わせた支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示が分かりづらい方にはイエスやノーで答えやすいように気をつけ、ちょっとしたことでも選択肢を出して選んでもらったり本人に決めてもらえるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事の流れや他職員を気にするのではなく、入居者の訴え等希望に添えるよう支援している。職員間でも声掛け連携し、一律の起床時間や食事時間にとらわれずにそれぞれの生活リズムを把握し個別ケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特別な日や出掛ける時などはいつもよりおしゃれをしたり、目ヤニや髪型の崩れなどにも配慮し、以前の好みのスタイルを気にしながら身だしなみが不自然にならないよう気かけ、化粧の習慣があった方にはその支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の好みに配慮し、食事の準備をそれぞれができる役割（野菜切り、盛り付け、洗い物等）を通して一緒に関わってできるよう支援している。	食材は近くのスーパーに入居者と買い物に行きます。入居者の好みや苦手なものを踏まえた献立を考えています。バーベキューや七草粥など季節に合わせた行事食も提供しています。入居者は食材を切ったり、食器の後片付けを手伝っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	併設施設の管理栄養士に献立をチェックしてもらっており一人一人の病状や習慣に応じた（できる範囲での）食事の提供、希望時には補食として買ってある物を提供したり、水分をたくさん飲みたい方には常に飲んでもらえるようにポットをそばに置いてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で行える方が多いので声掛けし、毎食行っている。自分で行うことが難しくなっている方には仕上げ磨きの介助も行っている。歯科指導により、義歯消毒を週2回実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介助が必要な方には排泄表を活用し、決まった時間ではなくその人のペースに合わせて何度も声掛けしない等の配慮をしながらさりげなく声掛けし誘導している。定期的に、その方の排泄表の必要性や必要とする物品等を職員で話し合っている。	本人の「行きたいときにトイレに行くことのできる」支援を心がけています。スムーズな排泄につながるよう個別のパターンに応じた排泄支援を行っています。可能な限りトイレで排泄出来るように支援し、失禁時には自尊心を傷つけないよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝の乳製品摂取や水分摂取（なかなか進まない方には好みの水分を提供）、散歩する等体を動かす機会を作り自然排便できるよう心掛けているが、寝たきりの方はどうしても運動量が少ないため個人に合った便秘薬の服用、マッサージ等行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前・午後どちらに入浴したいか聞いて選んでもらったり、拒否があった際は声掛けを工夫したり様子をみてタイミングを図り再度の声掛け、もしくは無理強いせず中止する等柔軟に対応している。	事業所が決めた曜日や時間帯でなく、入居者の希望に合わせた入浴支援をしています。週2回以上、ほとんどの入居者が自身で入浴し、職員は利用者の残存能力を大切に見守り支援を行っています。好みのシャンプーを備え使用している入居者もいます。脱衣所の室温にも気を配っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の意思を確認しそれに沿った対応、自分から横になれない（動けない）方にはその時の様子を見ながら静養してもらう、日中は陽に当たってもらう等し生活リズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に処方箋をファイルしており、内容を把握できるようにしている。薬が変わった際は、変化の観察や記録、看護師への報告を行い、一人一人の状態に合った（粉にしてもらったり、スプーンで服薬介助する等）支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を把握したうえで、掃除や調理等その方が得意とすることができる範囲でのお手伝いをして気分転換を図っている。若い時に俳句が好きだった方には家族の希望もあり書き写しを行ってもらったり、やりたいことは止めずに見守る支援を心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所のコンビニに買物に行きたい方は一人で行ってもらったり、その日の希望に沿い、散歩や買物の支援をしている。（コロナ禍でできていないが）年1回、『里帰り行事』として希望の場所に職員とマンツーマンで出掛けられるような企画もあり。	コロナ禍以前の「里帰り行事」では墓参りやカラオケなど入居者の希望の場所へ家族と職員と一緒に外出しています。施設の車で花見やあじさいの観賞や、秋には紅葉見学も計画しています。施設の中庭には花が植えられ、入居者は散歩を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	手元にお金がないと不安であったり買物に行きたい方にはご家族にも了承いただき財布を持っており、買物に行った後には手持ちの残金も確認してもらいつつ、お金を使用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけたり、職員がご家族に電話をした際に代わって話しをすることも。毎月ご家族に担当が手紙を書いて郵送したり、その方の良いショットを写真付きで年賀状にして出している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた設え、清潔で明るい場所になるような居住空間を心掛けている。また、生活していくうえで不備が出た際はすぐにレイアウトを変え、その時その時の利用者の状況に合わせた、生活しやすい環境整備を行っている。	入居者と一緒に作った千羽鶴など、多くの作品が壁に飾られ家庭的な空間となっています。入居者が居心地よく過ごせるようにソファや椅子の向きを工夫しています。テレビではオンライン公式動画チャンネルで懐かしい歌番組を流し入居者も楽しみながら過ごしています。職員が毎日掃除をし清潔感のある共有空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スペースが狭い為空間は限られるが、ちょっとした場所に椅子やソファを置き一人でゆっくりできるような空間を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内には使い慣れた家具の持ち込み、家族の写真を置く等居心地よく良く過ごせるよう工夫しておりそれぞれ持ち込んでいるものが違う。家具の配置については生活動線も考えながらご本人と一緒にやっている。	居室にはエアコンと作り付けの棚が備わっています。仏壇やタンスなど馴染みのものを持ち込み、自宅と環境が変わらないように工夫しています。居室担当が入居者と一緒に掃除を行い、家具の配置も入居者が居心地よく過ごせるように取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その日によって「できること」「分かること」が違う為都度観察し、職員間での情報共有、一人一人の能力を把握しできないことをサポートしながら安全に、転倒しても大げがしないような環境整備をする等、穏やかに生活してもらえるように工夫している。		

2022年度

事業所名 グループホーム相模原
 作成日： 令和 5 年 1 月 22 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍になり、行事等の中止で地域との関わりが希薄になってしまっている。	施設外に出掛けて行く機会を増やし（再開し）、地域を含めた外部との関わりを持つ。	自治会長や民生委員の方との顔合わせ、またコロナの状況をみながら中止にならない限りは従来通り地域行事への参加をし、グループホーム主催での地域交流会の実施も検討していく。	12ヶ月
2	10	コロナ禍になり、リモートでの研修を実施する機会が増えたが、受講しただけになってしまっている。	各研修を受けた毎に、復命書の提出や研修報告を行う。	受講したリスト作成等書類整備を行い、研修終了毎に復命書類の提出、職員会議の場などで研修報告を行っていく機会を作る。	3ヶ月
3	13	ケアの統一、申し送り事項の漏れがあり、次の勤務者に伝わっていないことがある。	職員バラバラではなく、統一したケア、同じ問題を解決できるチームワークを持つ。	申し送りノートのみではなく、大事な事は口頭で伝え続けて行く。大きな問題は皆で話し合う場を持つ。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月